

リカバリー ニュース

RECOVERY NEWS

とかちダルクニュースレター



リカバリーニュース 創刊号

発行日 2013/9/1

発行：NPO法人とかちダルク

TEL:0155-67-0911

FAX:0155-67-0912

HP:<http://tokachi-dar.org>

INDEX

P1：創刊のあいさつ

P2：開設にあたって

P3：みつひで

P4：りょうくん／編集後記

7月に京都で行われたNAのコンベンションにとかちダルクのメンバー全員で参加しました。

リカバリーニュース創刊にあたり

とかちダルクは一昨年(平成23年)9月に北海道ダルク(札幌)の道東方面の事業所として帯広市に開設いたしました。北海道には札幌市にしか拠点が無かったため、そのほかの拠点をとその数年前から考えていたのです。

そして昨年11月に独立し法人化しました。

開設した時には、私を含めて合計3名でスタートしました。

紆余曲折がありました。現在は7名の入所者と通所の仲間が1名、職員は私を含めて2名、と合計10名で回復のプログラムに取り組んでいます。

まだまだ不安なことではわからないことばかりです。

今後とも皆様ご支援よろしくお願いいたします。

宿輪龍英

とかちダルク開設にあたって

とかちダルク開設から現在までについて、お話ししたいと思います。

とかちダルクの宿輪（しゅくわ）と申します。この度やっとニューズレターを発行することに手を付けました。色々忙しさにかまけて、怠けてなかなか作れずにいたのです。

さて、冒頭にも記しましたがとかちダルクは開設して2年を迎えようとしております。開設から法人化し、現在に至るまでを簡単にお話ししたいと思います。

一昨年9月14日に帯広市内で「とかちダルクケアセンター」を開設しました。

帯広に活動拠点を決めたのは色々な条件が重なってきたからです。

当初、かつて十勝で働いてらっしゃる方に色々な人に合わせていただきました。そのおかげで、沢山の方と知り合えました。

活動を始めてし一年ぐらいしたときに法人化の準備を始めました。最初から独立を視野に入れていたこともあったからです。

生まれて初めて行うことだらけでした。十勝総合振興局に何度も足を運びやっと法人の手続きを済ませました。そして、法務局に法人の登記をいたしました。それが昨年の11月でした。その翌月に、グループホームの自立訓練（生活訓練）の設置

も済ませました。

設置するまで色々なことを、多くの方に聞きました。実際聞いても全く分からないことだらけで、本当に収入までに結びつくのかそういう思いがありました。実際何人かの方に運営費の一部を協力していただきました。私の経済的価値観が乏しいのかお金が全く足らず、しばらくは少ない蓄えで何とかしのぎました。

そして今年の2月にやっと第1回目の訓練等給付の請求ができました。しかし、その請求がきちんとできたかどうか全く分からず、本当に2か月後に入金されるのかわからず本当に不安の日々を過ごしました。

今も落ち着いたとは言えませんが、いろんな方の協力支援のもとにとか

ちダルクは運営できています。

色々なことがあります。仲間とともになんとか今日一日を過ごさせていただいています。

皆様これからも変わらないご指導、ご支援、ご協力をおねがいいたします。

宿輪龍英





アディクトの「みつひで」です

とかちダルクに繋がったのは昨年3月です。

私は東京で事業を30年ほどしてましたが、先物相場で全てを失い、47歳で薬物に手を出して、家族、知人、社会信用のすべてを

失い、刑務所に2回入りました。2回目の刑務所を出た後に、自分自身で薬物を断ち切る事を考え仕事も住居も構えてみたものの、理想と現実の厳しさに打ちのめされました、路頭に迷い、生活に追い詰められ、心身ともに、限界でした。最初は東京ダルクに通

所で4ヶ月間通いましたその後、とかちダルクに入寮が決まり、その時、私自身まだ本心で薬物を止めようなどと考えていませんでした、ダル

クに繋がったきっかけはヤドカリのつもりでした。

東京でのミーティングに参加して同じような気持ちでダルクに繋がった人たちが多いことに驚きました。

崖から飛び降りたつもりで、東京のすべての「しがらみ」を、捨ててとかちダルクにたどり着き、私自身、生きる屍となっていました。入寮してからも、違い探し、仲間との人間関係、孤独との戦いと悩み、などに苦しんでいましたが、やがて仲間と信頼関係が生まれ、心身ともに疲れた私に、札幌のダルクの仲間の思いやりで元気を取り戻す事が出来ました、その時初めて仲間って良いなと感じ今では感謝で一杯です。60歳を過ぎて、気

が付いたら、今の自分です。

自分がどこで人生の道の間違ったのか、学生のころは、スポーツマンで、社会にいても仕事が好きで、曲がったことが大嫌いな性格でした。

自分が経営していた宝石店に来るお客さんで、覚せい剤を使っている人を見て、最初は「怖い、関わりたくない」と感じていた自分なのに結局手を出してしまった……

今では とかちダルクに来て、感謝の気持ちでいっぱいです。今の私を支えているのは、とかちダルクと仲間です、色々な事を仲間の中に行くと気付けせてもらえることや、施設

長の思いやりで、今の自分がいることです。

今までの生きてきた61年間よりも北海道に来て一年と三か月がどれ程、自分にとって大切な事学んだか、新しい生き方を模索中ですが、今、自分にできることは、人として成長して行くことです。

今でも子供の事を考えると、会いたい、連絡を取りたいと思うのですが、自分がした事を考えると、恥ずかしくて、やりきれない気持ちでいっぱいです

帯広に来て沢山の大切な、献品、献金を頂いた、その恩返しを自分自身の回復と、新しくやってくる仲間の手助けをする事が私の出来る事だと思いつタッフとして歩んでいます。

アディクトのりょうく
んです。

とかちダルクにきて早
1年8ヶ月になりました。

自分がとかちダルクに
来た時は、現在のような考
えは全くなく、とかちダル
クでも東京ダルクにいた
時と同じように時間がた
てば全て変わるというよ
うな考えでした。

それが何ヶ月か続いた
ある日、北海道ダルクあて



にある人から電話がか
かってきたということ
聞きました。そのことが
とかちダルクのスタッフの
耳にも入り仲間に聞かれ
ました。

その人は刑務所にいた
時に同じ工場だった人で、
ダルクの電話番号を教え
たことをいい。もしその人
がダルクにきたら自分で
解決しますと強がって
いました。ですが、日が経つ

につれてだんだん怖くな
り、そのことで頭がいっぱ
いになり、何もできない自
分が悔しくて、自助グルー
プへ行く途中の車の中で
も悔し泣きをしました。そ
してミーティングで「自分
に何かあったら助けてく
ださい」とやっということ
ができ、その時から自分自
身の中にあつた何かが変
わつたように思います。そ
して、とかちダルクに来て
色々な仲間や色々な人と
出会い、今の自分は一人
じゃないんだと思うよう
になりました。ときには格
好つけたり、強がったりす
る時もあります。色々な
ことで悩んだりしたとき
もミーティングで話した
り仲間を助けてもらった
りして今日一日をやつて
いこうと思います。

ありがとうございます。

とかちダルク寄付ご協力のお願い

とかちダルクでは日用品や食料品、消耗品の寄付を呼びかけています。米、レトルト食品、シャ
ンプーや寝具、衣服類等お願いします。ダルクには着るものもなく入所する方が非常に多いので
す。皆様どうぞよろしくをお願いします。

ご連絡は 0155-67-0911 まで

編集後記

まだまだ至らないとこ
ろが多くあると反省の
日々です。十勝に引越
してきて仲間の力を感じ
るようになってしまし
た。今更ながらでお恥ず
かしい話です。

やりがいもあります
が、言いようのない不安
に襲われることもありま
す。このままでいいの
かと思うこともあります。

結構な時間ダルクス
タッフをやってきました
が、運営になると全く別
問題です。不安に押しつ
ぶされそうな時もありま
す。しかし、幸いなこ
とにこの私の話を聞いて
くれる方が多くいらつ
しゃいます。今までは
ないことでした。

そういう力に感謝しつ
つ仲間とともに今日一日
を過ごしていきます。

宿輪